

# 第1地域 RRFC 便り 6月号

Rotary



2022年6月1日発行



## 3カ年の任務を終えて

### この号の内容

- 1 3カ年の任務を終えて
- 2 ロータリー奉仕デー「広島から世界に目を向けて」
- 3 ウクライナご出身のエレナさんも募金活動に参加
- 4 ロータリーによるウクライナ危機への対応
- 5 ローターアクターによる補助金参加が！
- 6 句仏上人の句と牡丹の花
7. 東本願寺のつづくと子規の句

2019年の7月1日から2022年の6月30日までの3ヶ年第1地域ロータリー財団地域コーディネーターの任命を受けて今月30日で任期を満了することになりました。この3ヶ年第1地域の地区ガバナー・地区財団委員長・地区ガバナーエレクトには毎月ロータリー財団の情報を適宜お知らせするために「第1地域 RRFC 便り」を送信して参りました。この目的は、

- 1) ロータリーの最優先事項であるポリオ根絶を達成するため、ポリオプラスへの支援をロータリアンに促すこと。
- 2) ロータリー財団への寄付（年次基金）に関してクラブと地区に支援を提供すること。
- 3) ロータリー補助金についてクラブや地区に情報を提供すること。
- 4) ロータリー財団委員長と委員が成功するために必要な資質とスキルを理解するための情報を提供すること。
- 5) ロータリー財団のポリオプラス基金、恒久基金、年次基金への支援を促すこと。
- 6) DDF 配分と地区補助金の計画を立つことを支援すること。
- 7) ファンドレイジングの支援をすること。

この7つを基調にして如何に地区とクラブを支援できるかを考えた時に、定期的に各地区のガバナー・地区財団委員長・地区ガバナーエレクトに情報を発信して財団に関する取り組みをその都度認識して貰うことを願って第1地域 RRFC 便りの送信をスタートいたしました。この5年間（ARRFC を含めた）「年次基金ゼロクラブゼロ」を目指してのお願いを少し強引にして参りましたことも今では懐かしい思い出となりました。今後ともご理解とご支援をお願い申し上げます。初年度、同時に第1地域のE/MGAに就任された中谷研一PDGと話し合い、今の日本の現状では大口寄付（1万ドル以上を一括に）や冠名基金（2万5千ドルから）の設立をお願いすることに難しさを感じていました。そこで我々はPHS（ポール・ハリス・ソサエティ）を推進することに注目し、そのための認証式と入会式をブラックタイパーティーの実施を初年後に計画していました。皆さまご承知のように2020年春から新型コロナウイルス感染症に拡大のために初年度は泣く泣く中止を余儀なくされました。次の2020-21年度は少しラフに参加して貰おうとバーベキュー前夜祭を企画しましたが、又してもコロナ禍のため、中止となりました。しかし、お陰様で今年度4月23日24日の両日札幌市においてPHS認証式（札幌プレミアムホテルTSUBAKI）とPHS前夜祭（札幌ビール園）に、全国各地から多くのご参加を賜り開催できましたことは、3カ年のRRFCの任務を終えるにあたり初期の目的の一つを達成出来た事と安堵しています。この3カ年を支えて戴きましたチーム財団（飯村・細川・橋岡・佐々木ARRFC・中谷E/MGA・高柳EPNC・第2地域服部良男RRFC・第3地域永田壮一RRFC）の皆様には深甚なる感謝と御礼を申し上げます。併せて、日本チーム（菅原RC、井原RPIC、水野RC、服部（陽）RPIC、滝澤RC、山下RPIC）の皆様にもロータリー運動を推進する同じ目的のためにご一緒できましたことは大変有意義な経験となりました。深く御礼申し上げます。コロナ禍での対応に様々なアドバイスを戴いた、国際ロータリー日本事務局財団室の清水優季 室長を始め、財団室の皆様には心から感謝を申し上げます。次年度の第1地域RRFCには3ヶ年一緒に財団チームの一員としてARRFCとしてご尽力された第2550地区飯村慎一PDGが就任されます。飯村様のご活躍とチーム財団の変わらぬご尽力にご期待申し上げます。各地区の地区ガバナー・地区財団委員長・地区ガバナーエレクトの更なるご理解とご支援を宜しくお願い申し上げます。

（羽部記）

# 【ロータリー奉仕デー 広島から世界に目を向けて】

(広島西南ロータリークラブ会員、国際ロータリー第 2710 地区公共イメージ委員長)

<寄稿者:田中 朋博>



国際ロータリー第 2710 地区では、広島県と山口県の 72 のロータリークラブがそれぞれの地域ならではの奉仕活動を行っています。コロナ禍で迎えた 3 年目の春、2022 年 4 月 28 日に、初めての地区内クラブ合同奉仕事業となる『国際ロータリー第 2710 地区 ロータリー奉仕デー in マツダ スタジアム』を実施。広島東洋カープの主催試合にあわせて、マツダ スタジアム、広島駅とマツダ スタジアムをつなぐカープロードなど計 7 カ所で募金を呼びかけ、スタジアムの入場ゲートなどで資料配布やロータリークラブの公共イメージ調査を行いました。今回の事業は、国際ロータリーが長年にわたって続けているポリオ（小児まひ）根絶のための活動（エンドポリオキャンペーン）と、ロシア軍の侵攻を受けるウクライナにおいて被害を受けた方々への支援を目的として行われました。

「多様性を受け入れ、相互理解を深めよう」という掛け声のもと、ローターアクト（18～30 歳の青年男女）やインターアクト（12～18 歳の中高生）、米山奨学生（勉学・研究のために日本に在留している外国人留学生）をはじめ、日本青年会議所、広島青年会議所などの他団体とも連携。広島にゆかりのあるウクライナご出身の方々も加わり、総勢 323 人が活動に参加し、奉仕活動終了後には野球観戦を通して親睦を深めました。

## 多様性を受け入れ 相互理解が深まる世界に向けて

24,394 人の野球ファンがマツダ スタジアムに応援に駆け付けた当日、奉仕活動に参加した 323 人は、広島東洋カープとコラボした赤いエンドポリオ T シャツを着用。ロータリークラブのさまざまな取り組みを 1 冊にまとめたパンフレットと、表面に広島東洋カープ、裏面にエンドポリオのロゴが入ったオリジナルうちわとパンフレットを、マツダ スタジアムの入場者やファンの方々に配布しました。



<インターアクトも参加して多様性に拍車>



スタジアムバックスクリーンの大型ビジョンでは、当日の奉仕活動についての告知やエンドポリオの CM 動画を放映。ロータリークラブの活動をより多くの人に知っていただけるよう、積極的に情報発信を行いました。活動にあたっては、メディア向けにプレスリリースを発信。地元の新聞やラジオ、ニュース番組など 10 以上のメディアで取り上げていただきました。国際ロータリー第 2710 地区 2021-22 年度ガバナー（代表者）の杉川聡氏は「ロシアによるウクライナ侵攻に強く心を痛めています。ポリオ根絶だけでなく、みんなのために、そして未来のためになにができるのか、平和を願って取り組みたい。多様性を受け入れ、相互理解が深まる世界に向けて、今回のような活動が少しでもきっかけになればという思いです」とメッセージを発信されました。さらに多くの共感と協力を得るために世界で 30 億人以上の子どもたちをポリオウイルスから救ってきたロータリークラブの活動。1988 年には 125 カ国で毎年 35 万件の症例報告がありましたが、2022 年現在、野生型ポリオによる症例はアフガニスタンの 1 件のみとなっています。

そうした世界的な活動実績を残してきた一方で、今回行った公共イメージ調査では、一般の人々への認知がまだまだ浸透していないという現実が浮き彫りになりました。





イメージ調査では、「Q1. ロータークラブについて知っていますか?」「Q2. ポリオについて知っていますか?」「Q3. ポリオ根絶の活動について知っていますか?」という3つの質問に対し746名の回答が得られ、そのうち「知っている」または「聞いたことがある」と答えたのは、Q1が403名、Q2が540名、Q3が157名という結果に。私たちの活動の意義を伝え、さらに多くの人々の共感と協力を得るためにも、地域を巻き込んだ活動の機会をさらに増やしていきたいと考えています。調査にご協力いただいた皆様には、ロータリーの活動周知のため、お礼としてウェットティッシュを配布しました。

#### この活動を、新しい未来へとつなげる一歩に

今回の奉仕活動には、広島出身でカープ女子としても知られるうえむらちかさんや、同じく広島出身でスポーツリポーターやモデルとして活躍されている佐久間むつみさんも参加。

「毎日、目を覆いたくなるような悲惨なニュースが飛び込んでくるなかで、自分もなにかお手伝いできないかという思いで参加しました。カープロードを歩く皆さんから温かい言葉をかけていただき本当に嬉しかったです。こうして普通に野球を観ることができる幸せに感謝しつつ、いま現在も苦しんでいる人たちが世界にはたくさんいるという現実をあらためて胸に刻みながら活動していきたいです」とうえむらちさん。

「今日こうしてたくさんの人に声をかけられることをありがたく思っています。1人100円ずつでも募金をしていただければ、祖国のためにできることがあります。この戦争をどう終わらせるか、被災者たちをどうすれば助けられるか、それだけをずっと考えています。ロシア人とウクライナ人は兄弟のような存在。平和の中で支え合って生きていくべきだと信じています」と話してくれました。

## 【ウクライナご出身のエレナさんも募金活動に参加】



ウクライナ人の父、ロシア人の母をもち、ウクライナ東部のドニプロという都市で育ったエレナ・ボンダレンコ（平石）さんは、ご主人が国際ロータリー第2710地区の会員。息子さんと共にドイツから広島へ一時帰国しているときに、ウクライナ侵攻が行われました。今回の募金で集まった519,586円は、国際ロータリーのロータリー財団やウクライナのドニプロシティロータリークラブを通して、ポリオが根絶できてない国やウクライナの支援のために届けられます。広島から世界に目を向けて、自分たちだからこそできることを新しい未来へとつなげられるように、国際ロータリー第2710地区はこれからも活動を続けていきます。

[広島から世界に目を向けて～ここで自分たちにできることを](#)

## 【ロータリーによるウクライナ危機への対応】



### ＜ウクライナ危機への対応＞

ロータリーは、ウクライナでの戦争による人命の喪失および人道的危機の深刻化を深く懸念しています。私たちは地域に根づいたネットワークと数十年にわたる経験を生かし、現地で迅速に行動を起こしています。

#### **ご寄付が活用されています**

2022年3月3日から4月30日までにロータリー災害救援基金に寄せられたすべてのご寄付は、ウクライナ難民またはこの戦争の被災者支援が行われている地域への人道的救援活動に優先して活用されています。世界中の方々からの温かいご支援のおかげで、ロータリーは1,500万ドル以上の寄付を募り、水や食糧、シェルター、医療物資、衣服といった必需品のために既にこの資金を活用しています。現在までに、この戦争による被災者支援のために、90件の災害救援補助金（総額240万ドル）が授与されています。ロータリー財団は引き続き、この寄付をウクライナとその周辺地域での人道的救援活動に活用していきます。地区は2022年6月30日まで、この目的のために災害救援補助金を申請できます。5月1日以降の災害救援基金へのご寄付は、復興援助を必要とする全世界の被災地で活用可能となります。

#### **災害救援補助金の申請**

ロータリー地区が災害救援基金から補助金を申請する方法をご覧ください。

迅速な手続きが行われるこの補助金は、水、食料、シェルター、医療品、衣服といった救援物資を含め、この危機による難民や被災者の支援に利用できます。地区は、地元自治体や地元団体と密に協力し、補助金が地域の具体的なニーズに充てられるようにすべきです。

#### **[申請はこちら](#)**

#### **クラブ・地区による救援活動の連絡先と支援方法**

ウクライナと近隣地域では、多くのクラブと地区が人道支援活動を行っています。ロータリークラブや地区の協力を得る方法、難民の宿泊に関する連絡担当者、その他の各地での取り組みについてご覧ください。各地のプロジェクトを直接ご支援いただけます。

#### **[救援活動のリストとその連絡先（PDF）をダウンロード](#)**

第2232地区（ウクライナ）は、ウクライナでの戦争の被災者を支援するための委員会を結成しました。同委員会は、負傷した市民のために必要とされている緊急医療物資のリストを作成しました。[リスト（PDF）のダウンロードはこちら](#)。

#### **ロータリーによる救援活動のストーリー**

ウクライナ難民に情報、移動手段、医療品、シェルターを提供するため、欧州や世界各地のロータリークラブとローターアクトクラブが、周辺地域の会員とともに支援活動に乗り出しています。

#### **[クラブの活動について読む](#)**

## 【ローターアクトーによる補助金参加が！】

### 【ローターアクトーによる補助金参加の新たな機会】

ローターアクトーは、長年にわたり、地元をはじめとする幅広い地域社会で有意義な奉仕を行って来ました。7月から、ローターアクトクラブは、ロータリー財団の補助金を申請できるようになり、さらに大きな影響を世界にもたらすことができるようになります。ローターアクトと補助金に関するよくある質問をダウンロードし、詳細をご覧ください。

### 【授与と受諾の条件 更新】

「授与と受諾の条件」が更新され、地区補助金用とグローバル補助金用のそれぞれ別個の資料となりました。これにより 混乱を緩和し、各補助金に関する特定の情報を見つけることができるようになります。

### 【2022-23 年度 地区の参加資格認定】

2022-23 年度のための、地区の参加資格認定はお済みですか?地区がロータリー財団の補助金を申請するには、まず 参加資格の認定を受ける必要があります。認定手続きは毎年行う必要があります。6月30日までに、必ずお手続きをお願いいたします。

参考: My ROTARY 「参加資格の認定」、財団室 NEWS2 月号 p.8

#### ➤ 手続きが必要な方

現ガバナーノミニと、2022-23 年度に新たに地区ロータリー財団委員長 (DRFC) になる方々です。(任期継続または再任のため 4 年目となる DRFC も必須です。DRFC2 年目、3 年目または 5 年目、6 年目の方は不要です)

#### ➤ 手続き方法

My ROTARY の「補助金センター」からオンライン手続きです。補助金センターを開いてから、画面右上「さらに表示」にカーソルを当てて、「地区 の参加資格認定」からお進みください。必ず 6 月 30 日までにお手続きをお願いいたします!

## 【地域 RRFC や ARRFC に相談して下さい！】

地区補助金やグローバル補助金に関して、分からないことが出来たら最寄りの(担当の ARRFC や RRFC)に気軽にお尋ね下さい。親身に相談に応じて下さいます。次年度のコーディネーターのメールアドレスを確認されると良いと思います。(羽部記)

## 【年次基金寄付ゼロクラブ】

新型コロナウイルス感染拡大により、クラブの取り組みや会員の皆様の生活へ大きな影響がある中でも、ロータリーを支えるための寄付をお寄せいただき誠にありがとうございます。クラブ会員のお一人でも年次基金へご寄付をいただければ年次基金寄付ゼロクラブではなくなります。今年度も残りわずかとなりますが、年次基金寄付ゼロクラブゼロの目標達成に向け、ご協力をお願いいたします。

地区別年次基金寄付ゼロクラブ数

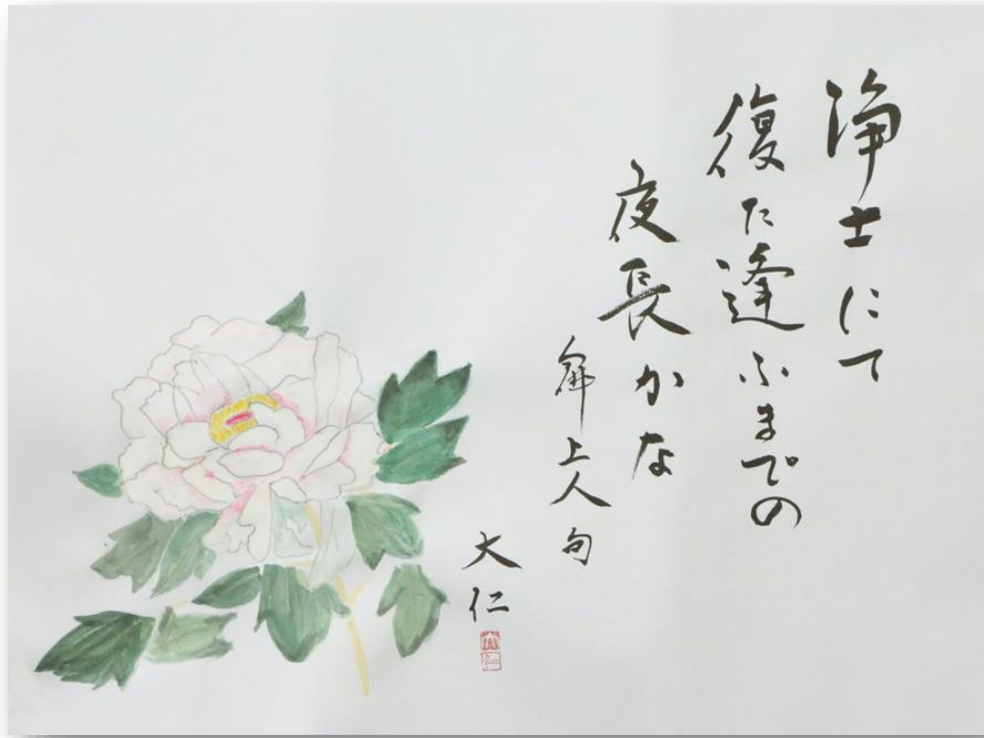
2022年5月23日現在

地区	クラブ数	地区	クラブ数	地区	クラブ数
2500	0	2620	2	2740	5
2510	1	2630	1	2750	4
2520	5	2640	9	2760	0
2530	3	2650	0	2770	0
2540	2	2660	0	2780	5
2550	2	2670	0	2790	1
2560	1	2680	3	2800	2
2570	0	2690	0	2820	0
2580	0	2700	4	2830	2
2590	0	2710	2	2840	5
2600	0	2720	3	合計	69
2610	5	2730	2		

地区内の年次基金寄付ゼロクラブの確認は、月次寄付レポートをご参照ください。※通常、ご寄付から約 2 週間後にレポートへ反映されます。 <<My Rotary にログイン→「ロータリー財団」にカーソルを当てて、表示されるメニュー内「各種レポート」→「地区のレポート」→「寄付&認証」の「レポートを見る」→月次寄付レポート>>



## 【句仏上人の句と牡丹の花】



大谷句仏（光演）上人は、東本願寺第 23 世の法主として 1875 年生誕。生涯 2 万句を詠まれた。そして波乱万丈の生涯を 1943（昭和 18）年 2 月 6 日に 68 歳で示寂した。

幸野椋嶺や竹内栖鳳に日本画を学び、正岡子規の影響を受けて「ホトトギス」誌に高浜虚子や河東碧梧桐に選評してもらったという。しかし、独自の句風に目覚め生涯に 2 万句を詠んで才能を開花させている。自ら「句仏」と句を以て仏徳を讃嘆する意味を込めて親しまれている。句誌「懸葵（かけあおい）」の中心的なメンバーである。句集に「夢の跡」「我は我」などがある。

1906（明治 39 年）4 月に、札幌初の仏教系女学校である北海女学校（現大谷高等学校）の開校に漕ぎつけた。かねてより負債問題で紛糾していた先代が脳病となったため引退し、財政立て直しのために光演が 35 歳で跡を継いだ。鉾山事業などで失敗して自己破産を申請し、1925 年に引退して長男光暢台下に管長を譲った。その後は苦勞をされて良く北海道にお越しになった。私の寺に昔御殿と言って前庭に 2 階建ての洋館があり、一階に寝室と居間があった。2 階は和室だったように記憶しているが、足がお悪かったので 1 階の洋間で過ごされていたと聞いている。その居間で良く絵を描かれていたと聞いた。句も詠んだのだろうと想像している。

今回紹介する句は「浄土にて 復た逢ふまでの 夜長かな」である。浄土真宗は宗祖親鸞聖人以来、浄土往生が人生最大の事業である。浄土に生まれることが根本なので、今生は無常であるけれど浄土においては、必ず二度の対面を果たして再会することが出来る。暫くの辛抱だと夜長ふと浄土での友との再会を期した句であると戴いたことだ。よく目にする句が「勿体なや 祖師は紙衣の 九十年」これである。今から八百年前、親鸞聖人の時代には、立派な衣などなく紙衣と言われるほど貧しい衣を纏い暮らされていた様子が伝わってくる。私が生活する現代社会は正に欺瞞に満ちた毎日でないか。お恥ずかしいとしか言葉が見つからない。そのことをお知らせ下された句である。3 年間お恥ずかしい絵や下手な文字を、そして根拠のない解説など大変失礼なことで反省している。ロータリーの相手を思いやる心で世界平和を念じつつ筆を下ろす事にする。（羽部記）

